

石巻市立雄勝小学校

2014年 12月 19日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

(1) 教見隆生『子どもの命は守られたのか』かもがわ出版 2011年

【場所】

雄勝湾から約350m、川から約90mの位置にある。
住所:宮城県石巻市雄勝町上雄勝3丁目55
※現在は別の場所で他の学校と統合して再開。



【東日本大震災による被害】

津波により2階建て校舎屋上まで浸水。 ※現在校舎は取り壊されている。

【震災当日の様子】

地震が起こった時、低学年はすでに下校しており、学校に残った児童は帰りの掃除を行っていた。校内放送は使えなくなっており、教職員が直接児童に呼びかけて校庭に避難した。校庭にはスクールバスを待つ一部の低学年と高学年の児童50数名と教職員16名、そして近隣住民が集まっていた。そこに保護者がきて迎えに来て引き渡しをしていると、防災無線からの警報が鳴り「津波による避難」の呼びかけが始まった。
「津波がきたら山に逃げる」というのが地域の人びとが常に口にしていたことだが、「ここ(学校)まで津波が来たことはない」と避難して来た人がいい、学校では「体育館の避難でもよいのではないか」「校舎の屋上でもよいのではないか」という意見も出たが、体育館はワックスがけをしたばかりであり、また地域の人々の「裏山がやはり安全だ」という声が上がったので体育館避難を回避し、校庭より5~6m高いところにある学校の裏山の新山神社に全員で避難することになった。

やがて街の中心を流れる大原川を遡上する津波が確認され、裏山の神社よりも高いところを求め、山道を登り避難した。その山道の山頂に着くと、一緒に避難してきた消防団員から「さらに歩いて、山の裏側にある清掃工場(ゴミ焼却所)に避難するように」との提案を受け清掃工場に全員で避難した。(1)

【調査して言えること】

学校の標高は3.5mほどで、海から約350mの場所にあり、また学校の横は川になっているため、地震の際に津波を警戒した避難の必要な学校である。

児童が避難した新山神社は学校のすぐ隣にあり、標高は10mほどしかなく津波の避難場所としては適していない。次に避難した清掃工場は学校から北西に1kmほど離れた場所で、標高は90m以上あり安全な避難場所である。学校の近くに山がある、学校外への避難がしやすい学校である。



東から見た学校(2014/3/18撮影)



避難した新山神社と裏山(2014/3/18撮影)

※社は震災後に再建されたもの。